消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

１．事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
２．体験した事例の名称	木造平屋建物の屋根に設置してある太陽熱温水器が地上に落下
３．体験した事例の中心的要素	木造平屋建物の軒下から消防隊員３名で隣接する隣りの木造建物１階と２階に放水中、ガサガサガサという音の後に、屋根に設置してある太陽熱温水器が隊員３名の所に落下、間一髪それを避ける。
４．体験した事例の原因・理由	太陽熱温水器が設置してある場所には火の手も回ってなく、太陽熱温水器設置部付近へ放水もしていなかった為、落下してこないだろうという思い込みがあった。朝方なので視界が悪かった。物が落ちてくる危険な軒下から放水していた。

【体験した事例の直接的原因について】

１．体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。

【体験した事例について】

１．発生日時	平成　21 年 4 月 12 日　午前 4 時頃
２．発生した当時の天候	晴
３．発生した活動現場	屋外：木造平屋建物　軒下
４．体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
５．事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
６．どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	飛来・落下ぶつにぶつかる、
７．事例体験時の活動	火災現場活動初期、　[木造建物]
８．（７の活動中）どのような作業中に発生したか	放水活動、
９．同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

１０．ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者Ａ）

○当事者Ａ	年齢[35]歳、 勤続年数[10]年、 現場経験年数[10] 年、 階級[消防副士長]、同様の活動 [１年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者Ｂ	年齢[26]歳、 勤続年数[5]年、 現場経験年数[5]年、 階級[消防士]、同様の活動 [１年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者Ｃ	年齢[19]歳、 勤続年数[1]年、 現場経験年数[1]年、 階級[消防士]、同様の活動 [１年に数度]、 任務 [隊員]
その他 （当事者が４人以上の場合）	

１１．事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過１	Aが	放水の指揮をしていた	
経過２	B が	建物に放水していた	
経過３	C が	B の補助をしていた	
経過４	屋根に設置されていた太陽熱温水器が	A の指揮位置へ音をたてながら落下した	
経過５	Aが	落下物に気付き後方へ飛び退いた	
経過６	B が	落下後に気付いたが安全を確認し放水を継続した	
経過７	C が	落下後に気付いたが安全を確認し補助を継続した	
経過８			
経過９			
経過 10			

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合　　：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。足元の安全が確保できていた。

○心理・体調について

ａ．あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

ｂ．注意力が欠如していた

・１つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c．経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d．心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

〇装備・資機材について

e．資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

〇活動環境について

f．障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g．行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h．足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

〇指揮・管理について

i．適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k．関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

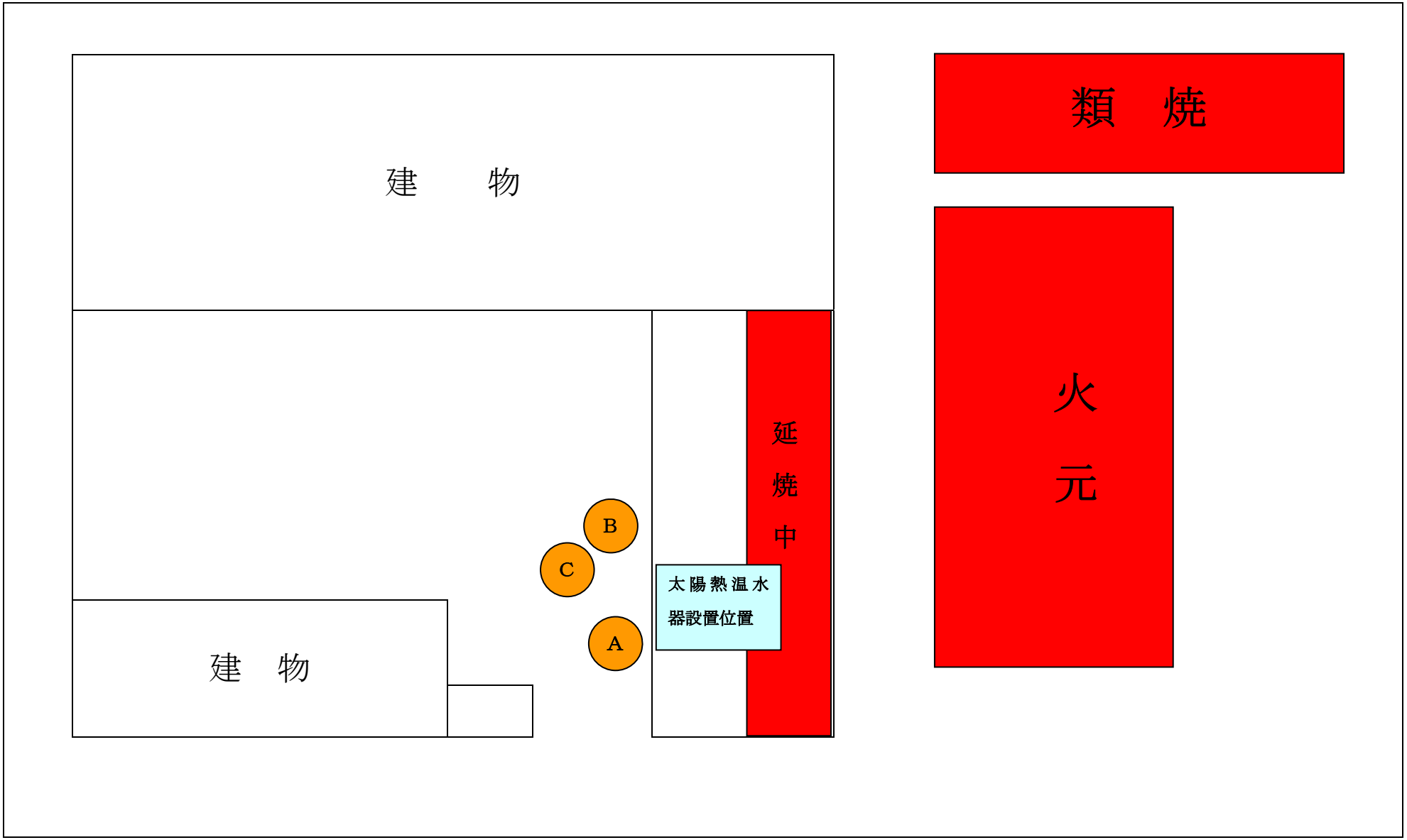
・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

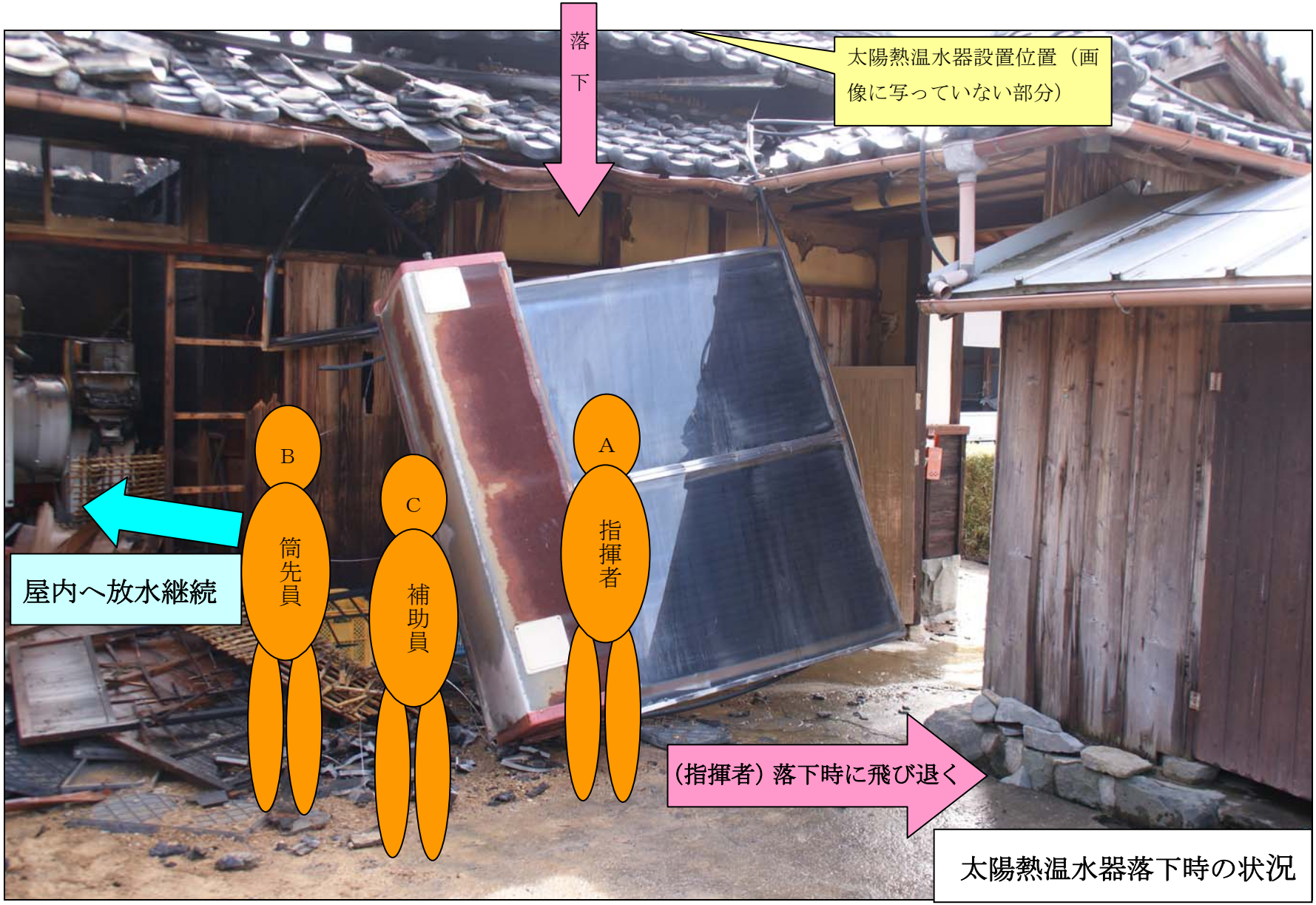
〇その他

l．その他の理由があった。

はい：大丈夫だろうという油断があった。

太陽熱温水器落下地点の隊員配置図





太陽熱温水器落下時の状況

〇ヒヤリハット事例：木造平屋建物の屋根に設置してある太陽熱温水器が地上に落下した事例　(09H0059)
（同様の体験は、初めて体験した。）

・発生日時　：平成21年4月12日　午前4時頃

経過	現場の状況	隊員A 隊員／消防副士長 ・年齢 35 歳 ・勤続 10 年 ・現場 10 年 ・同様の活動：1年に数度	隊員B 隊員／消防士 ・年齢 26 歳 ・勤続 5 年 ・現場 5 年 ・同様の活動：1年に数度	隊員 隊員／消防士 ・年齢 19 歳 ・勤続 1 年 ・現場 1 年 ・同様の活動：1年に数度	備考
出動指令	出動指令				火災出動
出動途上					
現場到着	木造平屋建物	現場到着			
活動初期	隣接する木造家屋への延焼危険あり				
		隣接する木造建物1階と2階への放水を開始			
		放水の指揮を実施			
	早朝で視界が悪い状態		建物に放水	隊員Bの補助を実施	
	屋根に設置されていた太陽熱温水器が音を立てながら落下				
		落下物に気づく			太陽熱温水器が設置してある場所には火の手も回ってなく、太陽熱温水器設置部付近へ放水もしていなかった為、落下してこないだろうという思い込みがあった。
		後方に飛び退く	安全を確認し放水を継続	安全を確認し隊員Bの補助を継続	
活動中期以降					

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

〇直接的な原因：状況判断に問題があった。
・体力、反射神経等身体能力が優れていた。
・足元の安全が確保できていた。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

活動後期

（心理・体調について）
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
・活動に対する経験が不足していた。
（活動環境について）
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。

撤収帰署